

働く母親とその子どもは母親の就労をどう認識しているか
- 発達における心理的变化に着目して -

立命館大学応用人間科学研究科
臨床心理学領域
大窪 恵

近年、女性のライフコースは多様化し、結婚・出産後も働き続ける女性が増加している。しかし、未だに母親の就労が子どもにマイナスの側面を与えるのではないかという捉え方が、母親側には依然根強い(末盛,2002)。だが、その一方で子ども自身は、働く母親をどのように認識しているのだろうか。

本研究では、子どもの成長・発達とともに、母親の就労という現象を子ども側はどのように捉えるようになるのか、母親側は「子ども」「関係性」「自分自身・仕事」の3つの側面にどのような心理的变化がみられるのか、さらに母親は子どもに対し、どのような具体的配慮を行っているのかというリサーチクエスションの下、調査・分析を行った。

本研究は2つの研究から成り立ち、【研究1】では、子ども側の発達と心理的变化について調査した。調査方法は、青年期の学生(有効回答66名)に対し、乳幼児期、学童期、思春期、青年期のそれぞれの心情や生活状態について回想し、記述してもらう形式とした。得られた結果から、「専業主婦の子ども」「働く母親の子ども」別に、発達段階ごとにキーワードを見出し、整理・考察を行った。次いで【研究2】では、母親が子どもの成長・発達に伴って育児や仕事を行う際、主に「子ども」「関係性」「自分自身・仕事」の3つがどのように変化していくのかについて着目した。現在青年期(主に大学生)の子どもをもつ働く母親19名に対し、半構造化面接による調査を行い、得られた発話データをカテゴリーに分類することを通じて分析し、考察を行った。最後に、【研究1】から見出された子ども側のキーワードと、母親側の分析結果の双方を照らし合わせることにより、子どもの発達に伴う子どもと働く母親の相互的な認識について明らかにすべく考察を行った。

以上の結果、【研究1】では、子どもは乳幼児期・学童期・思春期・青年期の発達段階によって専業主婦と働く母親に対するとらえ方の違いや変化が明確にみられた。働く母親に対する子ども側の主なキーワードの変化として、「寂しさ」「ジレンマ」「自由」・「批判」「感謝」・「自立」が挙げられた。【研究2】では、働く母親側の心理が子どもの発達とともに変化する様子が観察され、特に葛藤 不安感 ストレス 働く意味 関係性の5つの項目に関して、子どもの発達に伴う変化がみられた。